

新日美選抜小品展を終えて

事業部 児玉八千穂

新日美展がようやく終わって、ホッとしているところですが、その直前の九月七日〜十三日に選抜小品展が行われました。

毎年、東京の有楽町駅前の交通会館の地下画廊で行われています。小規模の小品展で、新日美の広報として、またそれぞれの会員の普段の作品に触れることが出来、大変意義深いものと自負しております。

毎年軒余曲折を重ね、今年は西日本の方々、またたくさんの方のご参加を頂き、大変見応えがあり充実した展示となりました。有難うございました。来年は会期を五月に変更しますし、このように充実した展覧会になるのでしたら、遠方の方々には送料や梱包など大変なご負担をお掛けしますが、今後は更に全国的に拡げて行きたいと思っております。



小品展でありながら目標は大きく、更なる発展を目指したいと思っております。ご協力をお願いします。また、私は今年初めて責任者を仰せつかり、しかも別の方が行うはずだったもので代打でした。

バターボックスに立ったはいいが、コーチがいよいよままバットを振り回していたようなもので、それはそれは準備不足と不手際、鈴木委員、荒木委員、山崎委員、他たくさんの方々のおかげで頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

今回の展覧会では最後の挨拶で一本締めをいたしました。ミニでも一つ、いよっポン！ 江戸っ子の景気付けです。新年また元気に制作に励もうではありませんか。

シリーズ 画家伝 大石 亨

抽象表現主義の先駆者

ウイレム・デ・クーニング

ウイレム・デ・クーニングは一九〇四年の春オランダ西部の港町ロッテルダムに生れた。父は飲料の配給会社を経営、母は船乗り相手のパノを持つていた。五歳の時、両親が離婚、裁判の結果、母親が親族を得た。その後、母親の手一つで育てられた。

働きながら美術学校を卒業したデ・クーニングは、一九二六年、二二歳の時、蒸気船でアメリカに密入国した。アメリカでは石炭の火夫、家屋装飾職人、商業美術、看板描き、等しながら一九三〇年頃から本格的な絵画制作を始めた。

デ・クーニングが室内風景、卓上静物、肖像画を経て、「女性像」を描き始めたのは一九四〇年頃からである。

第二次世界大戦が終結した一九四五年を境に、デ・クーニングの作風は一変する。エナメルを使った「黒と白の抽象」シリーズの始まりである。そして一九四六年六月、「発掘」を完成。「発掘」を完成した数日後、デ・クーニングは再び女性像の制作に取り掛かる。其れが「女」である。二年間描き続けて一九五二年六月に完成。白い歯を剥き出し目をぎよるつかせた豊満な肉体の女が椅子に腰かけ大画面を占領している・・・見る者を圧倒する、大傑作である。

以後彼は「マリリン・モンロー」「二人の女」風景としての女など多くの女性像を描いている。「風景としての女」で女性像が溶解し、風景と化してしまっただけでなく、デ・クーニングは純粋抽象の風景面に没頭した。そして厳しい風景画が一つの極限に到達して、これ以上の展開が望めなくなつた時、彼は再び女性像に戻った。ひたすら事物や人間を見据え其れを解体し、その本質を抽象しつづつ描き続けたデ・クーニングにとって、其れは今や不要になった。

晩年彼が描くのは自然の現象ではなく、絵画が自然そのものになってしまったとも言える。彼独自のイメージネーションの現実化である。一九九七年死去、享年九三歳。

編集後記

会報主担当を富岡さんから引き継いでから早くも四年半が経ちました。多くの方から協力を頂いてはいるが、自由投稿が殆んどない状況下、毎回まとまるかどうか不安を持ちながら、何とか発行日にこぎつけています。そんな中、原稿を積極的に提供してくれる人がおられます。早田美智子委員です。早田さんは、絵描きとしても優秀でかつ、会の事務的仕事も達者、口も八丁のマルチ能力の持ち主だから忙しい身なのだが、この際編集委員に加わって頂くようお願いしました。私自身四年半もやっていると持ちネタが切れ、いざという時埋め草がでなくなつていて。原稿は常時受け付けておりますので、身近の編集委員へ積極的に投稿されるようお願いいたします。 小高

スケッチ会の実施報告と次回予定

2014-6-28(土) 芝公園増上寺

本日降水確率 80%なのでスケッチ中止はやむを得まい。しかしながら「梅雨に濡れる増上寺」はどんな景色かと思うと雨の中とはいえどうしても出かけてみたくなった。そして梅雨ならではのきぬ増上寺の姿を目にしたのである。雨にけぶる本堂、濡れておわす観音菩薩、この聖観音はまことに美人である。樹の幹から滴る雫の玉の光、その時震える葉の動き、しかしながら腕は未熟、私にはとてもこの情景は描けない。未完のスケッチ一枚が残ったという次第。

2014-7-26(土) 江戸城東御苑

江戸城天守閣や本丸跡は日陰もなさそうだしスケッチには不向きであろうと二の丸庭園の木陰多いところで画帳を広げた。池の周辺にはいいポイントがあり「さるすべり」の花が開いていた。しかし暑い、早めに切り上げてクーラーのある休憩所へ逃げ込んだ。この日 参加者6名 猛暑をものともせず参加頂き恐縮した次第です。

事業部 一柳 幸

2014-8-9(土) 憲政記念会館国会庭園

台風が近づいているから天候芳しからず午後からは80%と予報された天気である。強い陽射しは無いから風の通り道は涼しかった。雨の降る前に一枚スケッチと筆を走らせた。憲政会館の庭は緑一色の中に「さるすべり」の赤が映えて程良い写生となる。町の喧騒もなく静かな雰囲気がとても良い。カラスや雀の鳴き声も時折聞こえてくる。蟬の音が印象的だった。



次回予定

当日7時の天気予報で降水確率50%を超える場合中止します。

- 2014-10-18(土) 板橋仲宿縁切り榎竹の湯蕎麦処 地下鉄都営三田線板橋本町改札口 10時集合
- 2014-11-29(土) 東大正門いちよう並木 東大正門前 10時集合
- 2014-12-13(土) 佃島小橋住吉神社月島界限 佃島小橋 10時集合 (地下鉄有楽町線、都営大江戸線月島駅より徒歩10分 佃島一丁目7番地)